平 29. 都土木技術支援･人材育成センター年報 ISSN 1884-040X
Annual Report
C.E.S.T.C., TMG 2017

1. 遮熱性舗装及び保水性舗装の性能追跡調査結果

Follow-up result of Solar Heat-Blocking Pavement and Water Retaining Pavement

技術支援課　西岡佑介、峰岸順一

1. まえがき

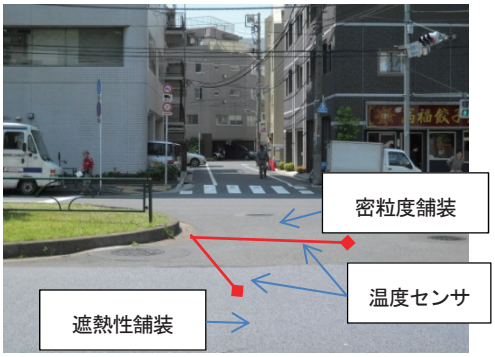
遮熱性舗装および保水性舗装は、路面温度の上昇を抑制する効果があることから、都市部で発生している熱帯夜の原因であるヒートアイランド現象対策として、東京都ではセンターコアエリアを中心に施工している。それらの舗装における路面温度低減効果については、舗装新設時の効果は遮熱性舗装（車道）設計・施工要領(案)にて規定されているが、供用後については把握できていない。そのため、平成 27 年度までに施工された遮熱性舗装および保水性舗装の路面温度を測定し、路面温度低減性能について経年変化を把握したので報告する。

また、遮熱性舗装については、遮熱材という樹脂塗料を低騒音舗装表面に塗布するため、一部の舗装において供用後の経年変化に伴い、すべり抵抗性能が低下するなどの事例が生じている。すべり抵抗も路面温度低減効果と同様に、供用後における性能は把握できていない。そのため、供用中の遮熱性舗装においてすべり抵抗の測定を実施し、すべり抵抗性能について経年変化を把握したので報告する。

2. 調査概要

(1)路面温度低減性能

路面温度低減性能を評価するため、温度センサ（サーミスタ）を舗装表面から 1cm 下に埋設し、路面温度の測定を行い、路面温度低減量を算出した。温度センサは写真-1 のように、調査箇所毎に遮熱性舗装とその近傍の比較舗装（密粒度舗装または低騒音舗装）の 2 箇所に埋設した。なお、測定頻度は 10 分間毎の連続測定とし、測定期間は路面温度が最も高くなると考えられる 7 月から 9 月とした。調査対象となる遮熱性舗装および保水性舗装の調査箇所を表-1 から表-4 に示す。また、測定結果の整理にあたっては、舗装ごとに表-5 の解析条件にてとりまとめを行った。



写真－1　路面温度測定状況

表－1　調査箇所（遮熱性舗装 その 1）

No.	名　称	施工年度	路線名		
S1	神保町	19	主	302	新宿両国線
S2	築地四丁目	19	主	50	東京市川線
S3	八丁堀	20	主	50	東京市川線
S4	有楽町一丁目	20	主	304	日比谷豊洲埠頭　東雲町線
S5	内幸町	20	主	409	日比谷芝浦線
S6	港南二丁目	20	主	316	日本橋芝浦大森線
S7	三田	20	特	409	日比谷芝浦線
S8	芝公園三丁目	20	主	301	白山祝田田町線
S9	北品川	20	主	317	環状六号線
S10	新宿一丁目北	20	主	302	新宿両国線
S11	青山一丁目	21	主	319	環状三号線
S12	二重橋前	21	特	406	皇居前鍛冶橋線
S13	汐先橋	21	主	316	日本橋芝浦大森線
S14	鶴巻町	21	主	319	環状三号線
S15	江戸川橋	21	主	8	千代田練馬田無線
S16	銀座東五丁目	21	主	316	日本橋芝浦大森線
S17	お茶の水	21	特	405	外濠環状線
S18	祐天寺	21	特	416	古川橋二子玉川線
S19	月島	21	特	463	上野月島線
S20	中目黒	21	主	317	環状六号線
S21	四ツ谷	22	特	405	外濠環状線
S22	新宿五丁目	22	主	302	新宿両国線
S23	渋谷橋	22	主	305	芝新宿王子線
S24	竜閑橋	22	特	405	外濠環状線

表－2　調査箇所（遮熱性舗装 その 2）

No.	名　称	施工年度	路線名		
S25	日本橋	22	特	405	外濠環状線
S26	南池袋	22	主	305	芝新宿王子線
S27	芝公園2	23	特	409	日比谷芝浦線
S28	神田須田町1	23	主	302	新宿両国線
S29	元赤坂2	23	特	405	外濠環状線
S30	神宮前2	23	特	418	北品川四谷線
S31	四谷1	23	特	405	外濠環状線
S32	津久戸町	23	主	25	飯田橋石神井新座線
S33	駒込1	23	特	455	本郷赤羽線
S34	東陽6	23	特	465	深川吾嬬町線
S35	小石川5	23	特	436	小石川西巣鴨線
S36	高輪1	24	特	415	高輪麻布線
S37	高輪2	24	特	415	高輪麻布線
S38	中延1	24	特	420	鮫洲大山線
S39	原町1	24	特	433	神楽坂高円寺線
S40	市谷田町2	24	特	405	外濠環状線
S41	要町1	24	特	441	池袋谷原線
S42	亀戸3	24	主	306	王子千住南砂町線
S43	新砂2	25	主	306	王子千住南砂町線
S44	錦糸3	25	特	465	深川吾嬬町線
S45	石原4	25	主	315	御徒町小岩線
S46	台東2	25	主	315	御徒町小岩線
S47	浅草6	25	主	319	環状三号線
S48	台場2	26	特	482	台場青海
S49	市谷本村町	26	特	405	外濠環状線
S50	市谷仲之町	26	特	319	環状三号線
S51	亀沢1	26	特	463	上野月島線
S52	湯島4	26	特	453	本郷亀戸線
S53	千石2	27	特	436	小石川西巣鴨線
S54	向丘1	27	特	455	本郷赤羽線

表－3　調査箇所（保水性舗装　その 1）

No.	名　称	施工年度	路線名		
H1	京橋	14	主	316	日本橋芝浦大森線
H2	三番町	16	特	401	麹町竹平線
H3	有楽町	16	特	402	錦町有楽町線
H4	一番町	16	特	401	都庁前室町線
H5	丸の内二丁目	18	特	406	皇居前鍛冶橋線
H6	駿河台(聖橋)	17	特	403	大手町湯島線
H7	神田錦町	17	特	403	大手町湯島線
H8	若松町	18	特	433	神楽坂高円寺線
H9	西新宿一丁目	18	副	3	新宿副都心三号線
H10	日比谷	18	主	301	白山祝田田町線
H11	永田町	18	中	176	中央官衙一七六号線
H12	霞ヶ関(外務省上)	18	中	176	中央官衙一七六号線
H13	西新宿二丁目	19	副	3	新宿副都心三号線
H14	西新宿北通り	19	副	5	新宿副都心五号線
H15	永田町(図書館西)	19	中	176	中央官衙一七六号線
H16	霞ヶ関(財務省上)	19	中	247	中央官衙二四七号線
H17	芝公園出口	19	主	319	環状三号線
H18	新常盤橋	20	特	407	都庁前室町線
H19	鍛冶橋	20	特	406	皇居前鍛冶橋線
H20	都庁南	20	副	2	新宿副都心二号線
H21	外神田2	23	特	452	神田白山線
H22	西新宿6	23	副	12	新宿副都心十二号線
H23	西新宿1	23	副	4	新宿副都心四号線

表－4　調査箇所（保水性舗装　その 2）

No.	名　称	施工年度	路線名		
H24	一番町2	25	特	401	麹町竹平線
H25	海岸1	26	特	401	新橋日の出ふ頭
H26	佃・新川	24	特	463	上野月島線
H27	日本橋室町3	20	特	407	丸の内室町線

表－5　解析条件

項　目	解　析　条　件
遮熱性舗装	最高気温30℃以上の真夏日、かつ降雨日を除く日
保水性舗装	最高気温30℃以上の真夏日、かつ降雨後3日以内

(2)すべり抵抗性能

すべり抵抗性能を把握するために、すべり抵抗値(BPN)と DFT による動的摩擦係数の測定を行った。

1)すべり抵抗値（BPN）

すべり抵抗値(BPN)の調査対象とした遮熱性舗装箇所を表-6 および表-7 に示す。すべり抵抗性能を評価するために、振り子式スキッドレジスタンステスタ(BPT)によってすべり抵抗値(BPN)を測定した。BPT を写真-2 に示す。なお、BPT による測定は、舗装調査・試験法便覧（（公社）日本道路協会）の「振り子式スキッドレジスタンステスタによるすべり抵抗測定方法」に準拠した [1)]。また、測定箇所は原則として、測定対象場所の走行車線における OWP（車線の中心線から進行方向左側に 1m 離れた位置）とし、1 路線あたり 10 箇所とした。

なお、BPT によるすべり抵抗値は、式(1)に示す NEXCO が示した補正式を用いて、測定データの温度補正を行った値(BPN20)にて評価した。

$$BPN20=-0.0071t^2+0.9301t-15.79+C_t \qquad 式(1)$$

ここに、BPN20：20℃に補正した BPN 値

C_t：路面の表面温度 t(℃)の BPN 測定値

t：路面の表面温度(℃)

表-6　すべり抵抗調査箇所一覧(その 1)

No.	ID	名称	年度	施工箇所
1	S19-1-16	神保町	19	千代田区神田神保町1
2	S19-3-12	四谷	19	新宿区四谷4～富久町
3	S20-1-4	海岸通り	20	港区港南2

表-7　すべり抵抗調査箇所一覧(その 2)

No.	ID	名称	年度	施工箇所
4	S20-1-6	有楽町	20	千代田区有楽町1
5	S20-1-8	御成門	20	港区芝公園3
6	S20-1-9	三田	20	港区芝2～5
7	S20-1-19	八丁堀	20	中央区八丁堀1～日本橋茅場町2
8	S20-2-14	北品川	20	品川区北品川6～4
9	S20-3-10	大ガード西	20	新宿区西新宿7
10	S21-1-3	青山	21	港区北青山1～元赤坂2
11	S21-1-5	東銀座	21	中央区銀座5～7
12	S21-1-9	二重橋	21	千代田区皇居外苑
13	S21-1-14	佃	21	中央区佃3～2
14	S21-1-19	小網町	21	中央区日本橋小網町～日本橋蛎殻町1
15	S21-2-1	目黒署	21	目黒区中目黒4～2
16	S21-2-4	西五反田	21	品川区西五反田1
17	S21-2-26	祐天寺	21	目黒区中目黒3～祐天寺1
18	S21-3-13	早稲田鶴巻	21	新宿区早稲田鶴巻町
19	S21-6-13	江戸川橋	21	文京区関口1
20	S21-6-27	お茶の水	21	文京区本郷2～湯島1
21	S22-1-4	三越	22	中央区日本橋本石町3～八重洲1
22	S22-1-11	神田	22	千代田区内神田2～中央区日本橋本石町4
23	S22-3-2	四ツ谷駅	22	新宿区四谷1
24	S22-4-9	池袋	22	豊島区目白2～南池袋3
25	S23-1-5	芝公園2	23	港区芝公園2～4
26	S23-1-10	神田須田町1	23	千代田区神田須田町1～神田岩本町
27	S23-2-14	神宮前2	23	渋谷区神宮前2～千駄ヶ谷1
28	S23-3-13	津久戸町	23	新宿区津久戸町～築土八幡町
29	S27-R1	千石2	27	文京区千石2
30	S27-R2	向丘1	27	文京区向丘1～2
31	S27-M1	中落合3	27	新宿区中落合3
32	S27-M2	北新宿1	27	新宿区北新宿1

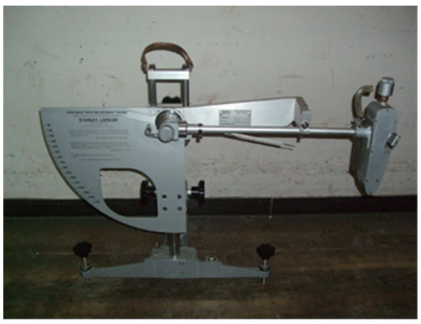
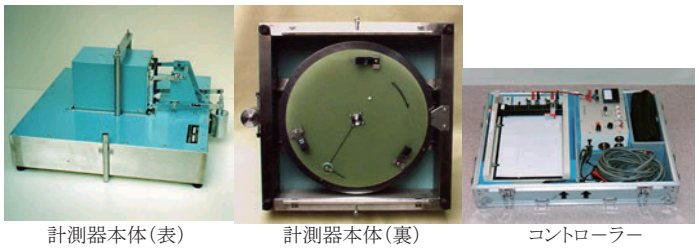


写真-2　振り子式スキッドレジスタンステスタ

2)DFT による動的摩擦係数

ダイナミック・フリクション・テスタ（DFT）により動的摩擦係数の測定を行った。調査対象となる遮熱性舗装箇所は BPN 測定と同箇所(表-6 および表-7)とした。DFT の測定器を写真-3 に示す。DFT による測定方法は、舗装調査・試験法便覧（（公社）日本道路協会）の「回転式すべり抵抗測定器による動的摩擦係数の測定方法」に準拠した [1]。また、測定箇所は原則として、測定対象場所の走行車線における OWP とし、1 路線あたり 4 箇所とした。



計測器本体(表)　計測器本体(裏)　コントローラー

写真-3　DFT 測定器

3.　調査結果

(1)路面温度低減効果

路面温度低減効果は、式(2)で定義する路面温度低減量により評価を行った。

路面温度低減量(℃)=[比較舗装の日最高路面温度]-[遮熱性舗装・保水性舗装の日最高表面温度]式(2)

なお、式(2)の比較舗装は、密粒度舗装または低騒音舗装である。また、式(2)で得られた路面温度低減量のうち、表-5 の解析条件を満たす最大値を当該年度における路面温度低減量の代表値とした。

1)遮熱性舗装

遮熱性舗装の測定結果を表-8 および表-9 に示す。また、経年変化をまとめたグラフを図-1 および図-2 に示す。なお、図-2 の箱ひげグラフは、凡例のとおり、最小値、平均値-標準偏差、平均値、平均値＋標準偏差、最大値を示している。

表-8、表-9 および図-1 における路面温度低減量の経年変化は、箇所ごとにばらつきが見られた。また、図-2 における遮熱性舗装の路面温度低減量の平均値は、供用1年で9.8℃、供用2年で7.6℃、供用3年で7.7℃、供用4年で8.2℃、供用5年で7.9℃、供用6年で6.8℃、供用7年で7.6℃、供用8年で8.1℃、供用9年で6.2℃となり、年数が経過しても性能を維持していることが確認できた。

表-8 測定結果（遮熱性舗装 その 1）

調査箇所	施工年度	路面温度低減量(℃)								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
S1神保町	H19	12.9	9.1	12.0	9.0	8.0	7.9	7.5	5.4	6.2
S2築地四丁目	H19	6.5	6.3							
S3八丁堀	H20	7.7	8.3	9.1						
S4有楽町一丁目(旧)	H20	5.1	4.3							
S4有楽町一丁目(新・前)	H20		10.4	8.5						
S4有楽町一丁目(新・後)	H20		11.8	9.7	10.9	10.0		7.7	8.3	
S5内幸町	H20	6.6	5.2	8.6						
S6港南二丁目	H20	9.4	7.1		5.0					
S7三田	H20	8.6	10.3	13.8						

表-9 測定結果（遮熱性舗装 その 2）

調査箇所	施工年度	路面温度低減量(℃)								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
S8芝公園三丁目	H20	5.2	5.5	5.1		7.9	7.4	6.0	9.5	
S9北品川	H20	8.5	8.2	7.7		11.7	8.0	9.3	9.3	
S10新宿一丁目北	H20	9.2	8.2							
S11青山一丁目	H21	7.1	5.6	5.5	5.3	5.6	4.8	6.6		
S12二重橋前	H21	5.6	3.3	3.4	4.7	2.6	2.1	4.0		
S13汐先橋	H21	2.0								
S14鶴巻町	H21	12.8	9.1	8.8	10.8	9.8		11.4		
S15江戸川橋	H21	10.7	10.0	8.2	6.9	6.1	4.8			
S16銀座東五丁目	H21	10.4	9.5	10.7	9.3	10.1	9.7	10.3		
S17お茶の水	H21	4.4	4.2	4.2		4.4				
S18祐天寺	H21	4.7	7.6							
S19月島	H21	6.7	5.1	4.3		4.1	4.3			
S20中目黒	H21	7.6	5.3	4.9	5.1	5.7	6.9	5.6		
S21 四ツ谷	H22	5.6	5.1	4.0	2.8					
S22 新宿五丁目	H22	5.2			9.9		8.6			
S23 渋谷橋	H22	10.2	9.0	15.4						
S24 竜閑橋	H22	9.6	9.7	7.5	11.0	7.5	10.6			
S25 日本橋	H22	10.3	4.4		5.9	7.6				
S26 南池袋	H22	13.2	5.0		9.2					
S27 芝公園2	H23	13.1	10.8	10.7	11.1	12.5				
S28 神田須田町1	H23	9.7	7.6		12.7	13.2				
S29 元赤坂2	H23	9.7	8.7	9.3	8.7	9.3				
S30 神宮前2	H23	8.1	7.5	5.1						
S31 四谷1	H23	4.2	2.4							
S32 津久戸町	H23	11.5	8.5	8.1	8.1	8.4				
S33 駒込1	H23	6.4								
S34 東陽6	H23	7.6	6.3	5.6	5.3	4.7				
S35 小石川5	H23	9.3	8.6	7.5	9.2	8.5				
S36 高輪1	H24	3.9		3.2	6.7					
S37 高輪2	H24	14.8		8.8						
S38 中延1	H24	8.4								
S39 原町1	H24	9.8	6.5	6.1						
S40 市谷田町2	H24	7.2	4.6	4.3						
S41 要町1	H24	9.9	11.2	9.8	8.6					
S42 亀戸3	H24	7.8	11.1	7.4	12.8					
S43 新砂2	H25	13.5	13.7	11.1						
S44 錦糸3	H25	8.1	6.2							
S45 石原4	H25	11.9	9.3							
S46 台東2	H25	8.3	6.6	6.7						
S47 浅草6	H25	8.9	8.4							
S48 台場2	H26	9.7								
S49 市谷本村町	H26	8.5								
S50 市谷仲之町	H26	8.5								
S51 亀沢1	H26	10.1								
S52 湯島4	H26	11.4								
S53 千石2①	H27	15.8								
S53 千石2②	H27	17.1								
S53 千石2③	H27	10.9								
S53 千石2④	H27	13.4								
S53 千石2⑤	H27	15.9								
S53 千石2⑥	H27	14.1								
S53 千石2⑦	H27	11.2								
S54 向丘1①	H27	15.4								
S54 向丘1②	H27	16								
S54 向丘1③	H27	16.1								
S54 向丘1④	H27	14.4								
S54 向丘1⑤	H27	15.5								
S54 向丘1⑥	H27	13.1								
S54 向丘1⑦	H27	11.7								

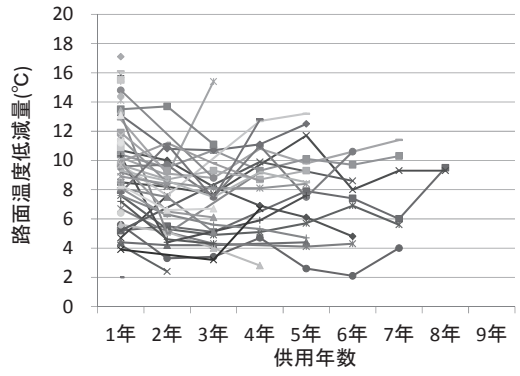


図-1 箇所別経年変化（遮熱性舗装）

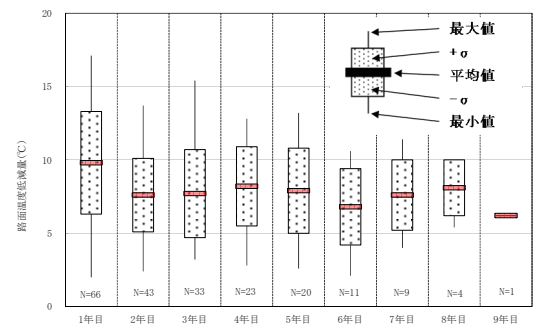


図-2 路面温度低減量の経年変化（遮熱性舗装）

2) 保水性舗装

保水性舗装の測定結果を表-10 に、経年変化をまとめたグラフを図-3 および図-4 に示す。

表-10 および図-3 の路面温度低減量の経年変化は、遮熱性舗装と同様に、箇所ごとにばらつきが見られた。また、図-4 における保水性舗装の路面温度低減量の平均値は、供用 1 年で 7.1℃、供用 2 年で 6.2℃、供用 3 年で 5.0℃、供用 4 年で 6.2℃、供用 5 年で 5.3℃、供用 6 年で 7.2℃、供用 7 年で 7.5℃、供用 8 年で 7.4℃、供用 9 年で 7.5℃、供用 10 年で 8.6℃となり、年数が経過しても性能を維持していることが確認できた。

表-10 測定結果（保水性舗装）

調査箇所	施工年度	路面温度低減量(℃)									
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
H1京橋	H14	12.9	9.2	7.0	5.0	5.6	6.3	11.0			
H2三番町(旧)	H16	12.8	9.6	6.2	7.3	5.6					
H2三番町(新)	H16						8.2	7.0	5.9	8.6	
H3有楽町	H16	9.6	7.0	3.6	4.2	3.9					
H4一番町	H16	10.6	8.2	5.0	6.6	5.6	7.4	7.6	7.7	8.8	
H5丸の内二丁目	H15	9.4	8.7	5.0	1.6	6.4					
H6駿河台(聖橋)	H17	1.9	2.7	3.6	4.7	9.4					
H7神田錦町	H17	10.5	8.3	7.8	8.4						
H8若松町	H18	2.5	4.1	4.3							
H9西新宿一丁目	H18	4.6	5.5	2.3	9.4	5.9		6.9	8.9	5.2	
H10日比谷	H18	2.6	3.2	4.7							
H11永田町	H18	4.2	6.6	6.3	5.3		6.2	7.1	8.3	6.6	8.6
H12霞ヶ関(外務省上)	H18	2.0	5.4	4.0							
H13西新宿二丁目	H19	4.7	3.8	7.4	4.4		7.3	8.3	7.6	8.1	
H14西新宿北通り	H19	8.3	5.0					1.9	8.2		
H15永田町(図書館西)	H19	6.2	5.1								
H16霞ヶ関(財務省上)	H19	4.9	7.0	4.7		2.3		6.1	6.2		
H17芝公園出口	H19	7.1	4.4	3.5		1.9					
H18新常盤橋	H20	3.4	3.5	2.7	2.1						
H19鍛冶橋	H20	15.9	14.2			9.1	8.7	9.3	9.0		
H20都庁南	H20	5.0		4.1	7.1		6.7	9.4			
H21外神田2	H23	5.9	7.4			4.4					
H22西新宿6	H23	6.8	2.7			8.1					
H23西新宿1	H23	3.3	4.1								
H24 一番町2	H25	15.1	9.3	4.5							
H25 海岸1	H26	6.2									
H26 佃・新川(佃)	H24				12.9						
H26 佃・新川(新川)	H24				3.7						
H27 日本橋室町3	H20								4.8		

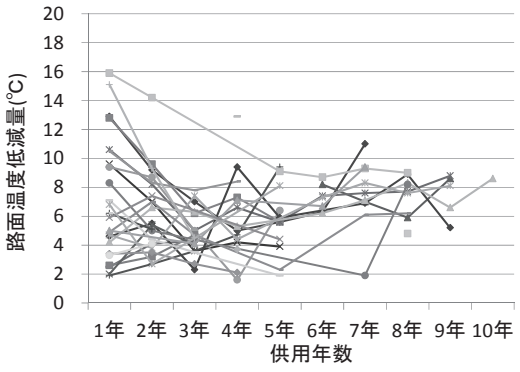


図-3 箇所別経年変化（保水性舗装）

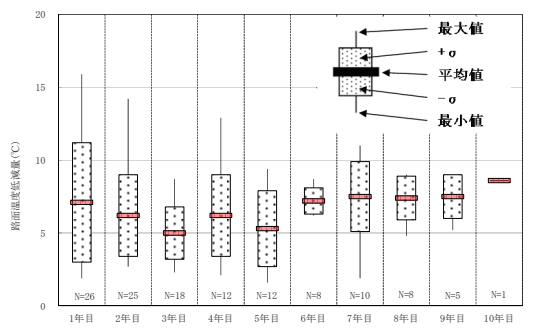


図-4 路面温度低減量の経年変化（保水性舗装）

(2) すべり抵抗性能

1)BPT によるすべり抵抗値(BPN)

遮熱性舗装における 20℃温度補正後の BPN20 の箇所毎の経年変化を表-11、平均値や最大値をまとめた箱ひげ図を図-5 に示す。図より、遮熱性舗装の BPN20 の平均値は、施工直後は高い値を示しているものの、経過年数が 1 年以降は大きな変動はなく、50 から 60 の間で推移しており、ある程度年数が経過してもすべり抵抗性能を維持していることが確認できた。

2)DFT による動的摩擦係数（μ60）

遮熱性舗装における動的摩擦係数の箇所毎経年変化を表-12、平均値や最大値をまとめた箱ひげ図を図-6 に示す。図より、動的摩擦係数は経過年数 3 年まで減少し、それ以降は横ばいとなる傾向がみられた。

表-11　BPN20 の経年変化

	BPN20									
	0年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
S19-1-16	70	52	38	47	47	66	42	43	45	43
S19-3-12	83	－	－	47	54	55	56	57	58	57
S20-1-4	75	54	60	－	－	－	－	57	56	
S20-1-6	64	－	53	48	50	44	46	50	49	
S20-1-8	68	48	60	－	－	62	62	61	60	
S20-1-9	69	58	46	53	－	－	－	57	54	
S20-1-19	73	46	54	48	－	－	－	51	49	
S20-2-14	74	43	49	42	－	66	64	64	65	
S20-3-10	67	44	40	46	－	－	－	53	54	
S21-1-3	71	56	58	51	58	58	59	57		
S21-1-5	65	45	58	53	53	－	52	48		
S21-1-9	71	55	59	55	54	55	56	52		
S21-1-14	83	63	68	64	50	－	49	51		
S21-1-19	63	43	－	45	－	－	47	46		
S21-2-1	70	52	56	55	50	－	49	47		
S21-2-4	77	44	－	43	－	－	46	46		
S21-2-26	63	41	50	43	－	－	44	45		
S21-3-13	81	74	66	64	65	64	64	62		
S21-6-13	72	53	56	53	53	54	54	54		
S21-6-27	68	44	55	56	－	51	51	50		
S22-1-4	79	69	69	63	61	59	59			
S22-1-11	82	70	69	61	61	59	60			
S22-3-2	71	60	62	67	65	65	63			
S22-4-9	74	68	56	58	60	59	58			
S23-1-5	71	67	57	59	58	57				
S23-1-10	－	76	53	53	52	54				
S23-2-14	67	57	58	54	53	51				
S23-3-13	92	64	54	56	54	56				
S27-R1①	84	60								
S27-R1②	77	52								
S27-R1③	84	55								
S27-R1④	79	58								
S27-R1⑤	90	62								
S27-R1⑥	91	51								
S27-R2①	71	58								
S27-R2②	65	61								
S27-R2③	76	56								
S27-R2④	86	52								
S27-R2⑤	79	57								
S27-R2⑥	85	45								
S27-M1①	92	57								
S27-M1②	82	52								
S27-M1③	84	59								
S27-M2①	61	40								
S27-M2②	64	53								
S27-M2③	75	49								

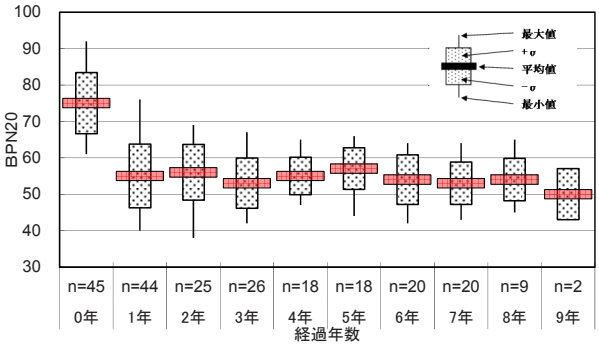


図-5　BPN20 の経年変化　箱ひげ図

表-12　DFT(μ60)の経年変化

	動的摩擦係数(μ60)									
	0年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
S19-1-16	0.55	0.50	0.35	0.37	0.34	0.37	0.38	0.33	0.36	0.36
S19-3-12	0.56	－	－	0.40	0.37	0.44	0.37	0.37	0.37	0.42
S20-1-4	0.72	0.44	0.47	－	－	－	－	0.39	0.51	
S20-1-6	0.43	－	0.38	0.35	0.35	0.34	0.28	0.30	0.36	
S20-1-8	0.67	0.52	0.48	－	－	0.44	0.38	0.37	0.43	
S20-1-9	0.55	0.47	0.36	0.33	－	－	－	0.33	0.44	
S20-1-19	0.66	0.43	0.44	0.37	－	－	－	0.36	0.37	
S20-2-14	0.62	0.34	0.35	0.28	－	0.44	0.41	0.43	0.51	
S20-3-10	0.61	－	0.42	0.37	－	－	－	0.38	0.43	
S21-1-3	0.70	0.42	0.45	0.38	0.37	0.36	0.35	0.36		
S21-1-5	－	0.41	0.32	0.37	0.41	－	0.40	0.38		
S21-1-9	0.53	0.39	0.36	0.32	0.31	0.32	0.31	0.27		
S21-1-14	0.64	0.55	0.47	0.46	0.49	－	0.41	0.44		
S21-1-19	0.56	0.40	－	0.39	－	－	0.36	0.35		
S21-2-1	－	0.40	0.35	0.37	0.37	－	0.35	0.35		
S21-2-4	－	0.36	－	0.27	－	－	0.28	0.20		
S21-2-26	－	0.40	0.37	0.36	－	－	0.36	0.42		
S21-3-13	－	0.65	0.50	0.49	0.49	0.46	0.41	0.40		
S21-6-13	0.56	0.43	0.33	0.40	0.33	0.33	0.30	0.36		
S21-6-27	－	0.42	0.42	0.44	－	0.35	0.38	0.37		
S22-1-4	－	0.57	0.59	0.48	0.46	0.42	0.47			
S22-1-11	0.74	0.58	0.56	0.44	0.45	0.41	0.45			
S22-3-2	－	0.50	0.47	0.38	0.35	0.36	0.35			
S22-4-9	0.60	0.54	0.41	0.39	0.37	0.38	0.37			
S23-1-5	0.57	0.52	0.40	0.40	0.37	0.41				
S23-1-10	－	0.40	0.42	0.35	0.35	0.39				
S23-2-14	0.75	0.44	0.36	0.37	0.37	0.22				
S23-3-13	0.77	0.54	0.43	0.45	0.42	0.44				
S27-R1①	－	0.37								
S27-R1②	－	0.36								
S27-R1③	－	0.35								
S27-R1④	－	0.41								
S27-R1⑤	－	0.4								
S27-R1⑥	－	0.35								
S27-R2①	－	0.37								
S27-R2②	－	0.39								
S27-R2③	－	0.41								
S27-R2④	－	0.37								
S27-R2⑤	－	0.35								
S27-R2⑥	－	0.3								
S27-M1①	－	0.48								
S27-M1②	－	0.44								
S27-M1③	－	0.5								
S27-M2①	－	0.46								
S27-M2②	－	0.43								
S27-M2③	－	0.37								

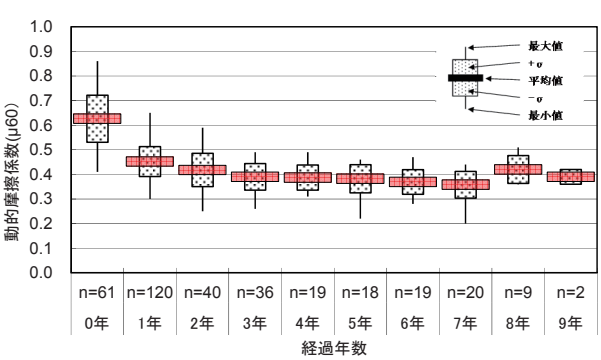


図-6　動的摩擦係数の経年変化　箱ひげ図

4. まとめ

遮熱性舗装と保水性舗装の路面温度低減性能、および遮熱性舗装のすべり抵抗性能について、測定ならびに経年変化の把握を行った。結果より、路面温度低減性能とすべり抵抗性能ともに、年数が経過しても一定の性能を維持していることが確認できた。今後も上記の性能について確認を行っていく予定である。

参 考 文 献

1)（公社）日本道路協会：舗装調査・試験法便覧、平成 19 年 6 月